

## 白浜町の未来のために何ができるか ～ FIDS メソッドを用いて ～

白浜町立白浜中学校 平野 俊

### 1. ESD を生かした授業づくり

#### (1) 単元名・学校種と学年

ふるさと学習「白浜町の未来のために何ができるか～FIDS メソッドを用いて～」

白浜中学校第1学年A組28名

#### (2) 生徒観

本校の生徒たちは、実験・実習のような、実際に手で触れ協働的に学習する場面では主体性を発揮し、科学的に考察・判断しようとすることができる。一部生徒のプレゼンテーション能力や課題発見力は高い。1年生にも活動に積極的に取り組む生徒が一定在籍、地域の課題解決のために校外活動が必要だと感じた際には、すぐに取り組もうとする主体性と積極性を発揮する。反面、学力面での二極化が進み、教員の手立て、生徒同士の相互補助は必須である。

白浜町の温泉は日本三古湯の1つとして有名で、温泉を中心とした観光産業により経済が成り立っている。にも関わらず、生徒たちの温泉や観光産業への理解・興味は低い。今年、観光の目玉の1つであるアドベンチャーワールドのパンダがいなくなることへの不安感が大きい。

- ・地域の温泉について興味があるか・・・肯定回答38%
- ・地域の温泉を知っているか・・・肯定回答34%
- ・温泉産業に関わるイベントに参加したいと思うか・・・肯定回答31%（2024年度3年生より）

白浜町の人口減少、観光産業の持続などについて、生徒自ら課題を発見し、白浜町の持続をテーマに学習にとりくむことで、郷土愛を高め、社会の課題解決に取り組み、各資質・能力を育むとともに、白浜の経済的・環境的な持続を目指すように価値観の変容を促したい。

#### (3) 単元の概要

白浜町の持続をテーマに、生徒自ら課題を考え、調査することで本当の課題は何かを発見する。そのうえで解決の方法を探り、実際に行動に移す。手法として「Design for Change ジャパン」(以下DFC)のFIDSメソッドを活用する。

FIDSとはFeel Imagine Do Shareの頭文字である。

Feel…感じる、気づく 町内で気になっていること、困っていることを考える

なぜそう考えたのか、自分の思いや背景をまとめる。

真に困っているのはだれか考える。

Imagine…考える、想像する。どうすればその問題を解決できるのか考える。

Do…やってみる。考えた課題解決方法を行う。

Share…伝える、広げる。やってみた結果を発表、発信し、振り返りを行い次の課題解決に向かう。

役場・商工会・観光協会・温泉事業主・自然環境の専門家等・各企業にも協力を得る。

### (3)ESD の視点の明確化

#### 【持続可能な地域づくりの構成概念】

- ②相互性・・・観光資源の開発・自然環境の保全・地域の生活の安定は自然・経済・社会と相互に関係している。
- ③有限性・・・温泉と豊かな自然を中心とした観光産業には限りがあることに気づき、学習に臨む。
- ⑥責任性・・・白浜町民として、豊かな暮らしを持続させる責任感を身につけさせたい。

## 2. ESD の視点を生かした授業の実践

### (1)単元の目標(重視する能力・態度)

#### 《長期的に考える力》《未来を予測して計画を立てる力》

今ある自然、経済、社会の課題に気づき、中学生発信で解決していき、持続可能なより良い白浜町を目指す。観光産業の1つの目玉、パンダが居なくなったこと。日本三古湯である温泉産業の発展に手詰まり感があることや三古湯であることを生かし切れていないことから。これらの価値を再発見し、情報発信をすることで経済的な持続を目指しつつ、併発する自然環境への影響を抑える方策を考える。

#### 《批判的に考える力》《多面的・多角的に考える力》

パンダに頼っていた現状を批判的にとらえる。温泉産業を生かし切れていないことを批判的にとらえる。温泉産業の従事者たちも高齢化が進み、後継者不足や手詰まり感があるなか、批判的、多面的・多角的に考え、白浜町の持続を目指す。

### (2)評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①自分たちで調べることや、役場、町長、環境の専門家、観光業に従事する人達に現状の話を聞き、白浜町の魅力と課題を知っている。 ②もっとも困っている人に、何に困っているか、どうなればよいのか、質問内容を設定し、聞き取っている。 聞き取りに際して、相手の立場に立って答えやすい質問を設定している。(外国語対応含む)	①白浜町の課題は何か、考え整理している。 ②考えた課題から、もっとも困っている人はだれか考えている。 ③調査した内容から、自分たちにできることは何か、提案している。 ④調査の流れ、聞き取ったこと、提案をまとめ、発表会で発表している。	①主体的に聞き取り学習、インタビュー、発表などに取り組もうとしている。 ②分かったこと、考えたことから、提案したことを実行しようとしている。 ③学習の中で、白浜町の資源に価値を見出している。 ④白浜町の持続発展に貢献しようとしている。

(3)単元の計画（総合的な学習の時間約50時間中、1学期末から2学期末まで約30時間前後）

時数	主な学習活動と内容	◇教師の支援	◆主な評価
1	教員からの導入 ・白浜町の経済、人口推移について	自分事化できるよう 課題意識を持たせる。	態度④
2～	FIDSメソッドについて バッグデザイン授業 ・課題解決のためには本当に困っている当事者に話を聞くことの大切さを学ぶ。	DFCファシリテーター 招聘	知識・技能②
4～	自分たちが予想する町の課題の設定	タブレット活用	思考判断表現①
6～	専門家講演～ヒロメラボ山西先生～ 白浜町の海についての現状と課題を知る。	県の事業より 環境の専門家招聘	知識・技能① 態度③
7～	班編成 テーマ別に28人を6班に分ける ①防災 ②生活と環境 ③観光 ④海と環境⑤経済と仕事⑥子どもの未来 どこに質問をすればいいのか設定する。	アンケート実施 第一希望、第二希望 より4～5人班編成	思考判断表現 態度 全般
9～	役場訪問を発案する。 訪問での質問内容を設定する。	白浜町役場との連携	知識・技能②
11～	町長講演・役場訪問 1時間超の町長講演（町長が考える未来と発展）1時間程度の役場、各課のお話 質疑応答	事前に質問内容をま とめておく。	知識・技能① 思考判断表現①② 態度①
15～	防災士 幾島先生講演 ・阪神淡路大震災の記憶 ・中学校の防災備蓄の把握と活用方法 ・防災食、防災グッズの使い方 ・まっさきにすべき「トイレ対策実習」	外部講師招聘 事前に役場防災課 より備蓄倉庫の物資 防災計画を教えて もらう。	態度① 思考判断表現③
19～	キャンプ場体験 豊かな海・自然に触れる		態度①③
24～	さらなる質問先の選定 発表会に向けてのまとめ・発表練習	分かったこと、できる ことをまとめる。	思考判断表現 態度全般
※	まとめ作業と並行各班で ・白良浜の観光客へのインタビュー ・円月島の観光客へのインタビュー ・漁師さんへのインタビュー ・円月島周辺の駐車問題調査 ・避難困難地域への調査（未実施）	教員3名による分担 放課後なども活用 インタビューのため 英語教師により 英語・韓国語などの フリップを用意。	特に態度①③④ インタビュー活動 はすべて生徒発案 知識・技能②
30	学習発表会で保護者・地域へ発表	ICT支援	思考判断表現④他

※学習のまとめ：課題解決のためには白浜町の魅力を発信する必要がある。

→企業と連携し地域の魅力をかちがちゃにして発信する、「白浜がちゃ2」を3学期に実施。（15時間）

4. 学習の成果物・学習の様子（11月23日発表会抜粋、番号は発表順に変更しています。）

①発表導入

1,DFCとは

1年生 総合的な学習の時間  
ふるさと学習

「白浜町の未来のために何ができるか」  
～デザインフォーチェンジの考え方を用いて～

[子どもたちや若者が自分たちの力で社会をよりよく変えるためのデザイン思考プログラム]

①経済と仕事班

町長さんへの質問

町長さんの回答

白浜に高等学校を建てられますか？

高等学校を白浜町に建てたいが、建てる土地がない

理由

白浜に高校があってもおかしくないと思ったから  
白浜町を訪れる高校生が多くなるかもしれないから

建てれるとしたら専門学校を建てたい

※補足 当初「白浜はまゆう病院の経営難のニュースから、お母さんが長く勤めているのに働く場所がなくなる！地域の病院がなくなり皆の健康状況が心配だ！」という理由から調査を開始。役場訪問にて質問するも「役場と病院の経営状況に直接的な関係はない」と回答され、「地域で安心して働き、暮らし続けるための条件」から考えた班員の次の関心時、「近くに安心していける高校はないのか」について考え質問を行った。教師のねらいとしては病院の問題にきりこんだ方が興味深かったが、生徒は「高校」について心配をふくらませ、学習を進めた。

②防災班

防災班ができた理由

この白浜町は南海トラフなどの大地震で津波などの大きな被害が予想されている地域です。災害に自分たちから備えられるようにし、他の人たちにも教えられるようになりたいと考えています。防災について調べているうちに知ったこと、考えたことなどを発表します。



防災課への質問

質問

有事の際に中学生だからできることは？



回答

- ・声かけをしながら高台へ避難
- ・避難行動を自分や家族がどのように取るか事前に話し合いしておく
- ・一人一人が命を守る行動を取れるよう日頃から備える事。

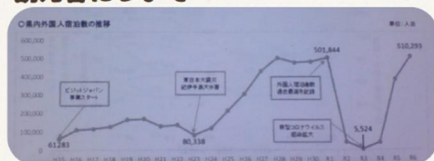
白浜地区特有の防災課題はある？

- ・津波被害が大きいことが予想されている地域なので早く高台へ逃げる課題となっている。

③生活と地域環境班

質問1 回答者 生活環境課

観光客について



自然への影響について

観光客の増加に伴ってゴミの量も増えておりポイ捨てが増えています。この問題は環境と海産物でも語られています。



質問3 回答者 町長さん

白浜町の再生可能エネルギー

太陽光について白浜町は日照時間が山が低いため長く太陽光パネルをつくるのには適している。しかし町長の意見で太陽光パネルは景観が損なわれてしまうので景観を大切にしている白浜には適していないので作らない。

脱炭素化についての目標

町長さんは今後水上風力発電を計画しているという話を聞きました地熱発電については企業から温泉の地熱を利用したいという声もあるそうです。



## ▼ 私たちが選んだこと、意見

私たちが選んだこと；子供たちの未来

### 町の問題点

- ・人口が少なくなっている
- ・高等学校がない
- ・部活動に専門的な人がいない



私たちに何ができる？

この街の魅力を精一杯伝える！  
イベントを企画する！



## ⑤ 観光班

私たちの班の目標は、観光客のマナーを高め、気持ちよく過ごせる町にすることです。  
中でも、路上駐車をなくす取り組みを中心に進めています。



酒の空き缶がミ

### 円月島周辺調査

円月島周辺の調査で分かったこと



レンタカーで来る  
外国人観光客も多い

### 円月島周辺調査

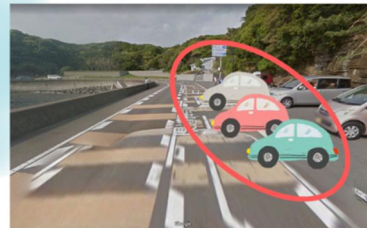
円月島周辺の調査で分かったこと



出入口に車が止められていて地元の漁師さんが入れない

### 円月島周辺調査

円月島周辺の調査で分かったこと



円月島が綺麗に見えるシーズンには車が二列に止まっていて、通行の邪魔になっている。

## ⑥ 海と環境班

### 03 観光客にインタビュー

Q. 白浜の海はきれいですか？

A. 白浜の海はきれい

Q. ゴミは少ないと思いますか？

A. ゴミは少ない

Q. 白浜に改善点がありますか？

A. ゴミ箱が少ないこと

ミャンマー人  
名前：ミントウーク  
・初めて白浜にきた  
・和歌山市内に住んでいる



### 05 私たちにできること

町長さんから白良浜に行く道などにゴミ箱の設置を検討しているから、そのゴミ箱のデザインを考えてほしいという宿題をいただいた。なのでこれから、白浜に置くゴミ箱をこの班のみんなで考えていきたいと思っています。



## 5. ESD の視点に基づく成果と課題

本単元では、「FIDS メソッド」を軸に、生徒が白浜町の持続可能性を「自分事」として捉え、具体的な行動へと繋げるプロセスを重視した。約 30 時間の活動を通じ、ESD の目標とする「資質・能力」の変容において以下の成果と課題が見られた。

### (1) 実践の成果：価値観の変容と資質・能力の成長

郷土の資源に対する価値の再発見（持続可能な地域づくりへの参画） 当たり前だと思っていた白浜の温泉や自然環境が、外部（観光客や専門家）から見て極めて価値が高いものであると気付くことで、郷土愛の深化が見られた。これは、ESD の構成概念である「有限性」や「責任性」を、知識としてではなく実感として捉え直した結果と考えられる。

「批判的・多面的思考力」の芽生え 町長の「経済発展のために住民に我慢を強いることもある」といった発言に対し、単に従うのではなく「本当にそれで良いのか」と問い直す生徒が多数現れた。既存の社会システムや大人の意見を批判的に考察し、自分たちの力でより良く変えようとする態度は、持続可能な社会の創り手として不可欠な資質である。

自己肯定感と社会参画意識の向上 「子ども」として守られる立場から、町長や役場職員と対等に議論し、仕事を依頼される「協力者」へと立場が変化したことで、生徒の自己肯定感が向上した。

調査技能の習得と未来予測能力 単なる「ゴミ拾い」のような一時的な奉仕活動に留まらず、FIDS メソッドを用いることで、真の課題解決のために「誰が、何に、なぜ困っているのか」を調査し、未来を予測して計画を立てる技能が身に付いた。

### (2) 今後の課題：カリキュラムの持続性と深化

カリキュラム・マネジメントの体制構築 生徒主導（ボトムアップ型）で課題を設定するため、(理科・英語が学年担当) それ以外の社会、家庭科、保健体育等との連携を組み込むことが困難であった。今後は、生徒が発見した課題に対し、教員側が即興的に教科横断的な知見を提供できるような、柔軟な組織体制の構築が求められる。

高度な思考（クリティカルシンキング）を支える足場かけ 病院の経営難問題など、行政の壁や問題の複雑さに直面した際、思考を深められずに停滞してしまう場面があった。生徒が困難な社会課題に突き当たった際、多角的な視点を提示し、探究を継続させるための適切な支援の方法を、教員側が身に付ける必要がある。

教員の負担軽減 放課後を利用したフィールドワーク等の支援が教員個人の負担（部活動との兼ね合い等）に依存した。教育委員会や地域コミュニティとの連携をシステム化し、学校全体・地域全体で探究活動を支える持続可能な体制づくりが必要だと感じた。



**現在の学年終了時に目指す姿**

自分たちの住む地域に愛着を持ち、地域の資源に価値を見出す。一人ひとりが街づくりの主体であることに気づくとともに、本当に困っている人は誰かを考え、真に町のために課題解決に向かい行動する生徒。

環境は意識的に守っていかないと、普通に生活するだけではだめになっていく。

理科

**1学年生物単元 全般**

環境差し込み教材「天神崎の自然を守るには」  
近隣の田辺市天神崎が、リゾート開発から守るためにナショナルトラスト運動によって守られたことを学ぶ。わざわざ環境を守る必要があったのか、ディベートを行った。  
地球単元「災害とめぐみ」→地域資源温泉学習

世界の課題について触れることができた。自分たちにできることも多い！

**国語科「話を聞く・敬語」**

いろいろな人に話を聞く方法を学ぶ。  
「情報活用の達人になろう」(表現)  
インターネットでSDGsについて調べ、テーマを1つ選び、今自分たちにできることをポスターにまとめて全員分を廊下に掲示した。

**総合的な学習の時間**

**「白浜町の未来のために何ができるか～FIDS メソッドを用いて～」**

○主に養いたい ESD の資質・能力

- ①クリティカルシンキング
- ③長期的思考力
- ④コミュニケーション力
- ⑤協働的問題解決能力

現状を批判的に考え、白浜町の持続のために何ができるか、未来を見据えて考える。現地調査、聞き取り調査などの活動を通じて、地域と協力し課題解決に当たる。

○主に育てたい ESD の価値観

- ①「世代間の公正」を重要視できる
  - ②「世代内の公正」を重要視できる
  - ③自然環境、生態系の保全を重視する
- 白浜町の持続のためには温泉を含む自然環境を保持しながら、観光業の発展を担う必要がある。資源を持続可能に活用できるかは自分事化すべき課題である。

**総合的な学習の時間**

1～2 学期「白浜町の未来のために何ができるか」  
3 学期「白浜がちゃ2」の取り組み  
2024 年度当時 2 年生が取り組んだ、ふるさとの魅力を知り発信する学習「白浜がちゃ」を踏襲。  
1～2 学期、社会的にも経済的にも海や温泉産業を中心とした観光業を発信することの必要性に気づき、発信に取り組む。

当たり前にある環境や温泉が日本でも貴重だったなんて。発信して観光業を栄えさせたい。

英語科

**インタビュー内容の英訳**

外国人観光客が多いことはわかっていたので、あらかじめ英語・中国語などのインタビューを用意。

**被災時などで通じる簡単な英文の作成**

災害時など、より伝わりやすい簡単な英単語での「避難」などの整理を行った。

社会科：白浜町の地理的要素について  
数学科：人口推移・経済効果の計算